



工藤光子：「藻—食べて、食べて、食べて... 細胞の進化へのチャレンジ展」 —JT 生命誌研究館の場合—

JT生命誌研究館は1, 2階が展示スペース, 3, 4階が研究施設になっている。現在, 常設展のオサムシの進化のほか, 企画展示として, 「藻—食べて, 食べて, 食べて... 細胞の進化へのチャレンジ」展 (1999年9月末迄), 進化の中のパラレルワールド展 (1998年9月末迄), 花の生命誌展 (1999年3月末迄) が行われている。私の所属するコミュニケーション部門は機関誌の製作, イベント, 展示等を中心になって行う部門である。1996年11月, 「藻類」をテーマに展示を企画する事が決まった。5つある研究グループのひとつ (リーダー: 大濱武主任研究員) が藻類ミトコンドリアの遺伝子構成, 遺伝暗号変異, イントロンORFを他の原生生物と比較研究しているの, それに関連したテーマを取り上げようという訳である。企画担当になった私は「藻類とは, どんな生き物なのか」から, 正確に把握しなくてはならなかった。そして, 知ってみれば藻類というのはなかなか奥が深く面白生き物だったのである。

展示の場合, 大事なことは最初に目に入るタイトルと, 全体が目に入ったときの第一印象である。これらが難しくては, 来館者に展示を見てもらえない。まず, タイトルだ。藻類という単語をなして, できるだろうか。タイトルを考えるとところから, 難しそうである。しかも, 藻類は目に見えない。いかに, ぱっと見た時に見てみたい展示にするか。しかし, 企画する側の人間が本当に面白いと思わなければ, 何も伝えることはできない。忙しい研究員をつかまえて, 基本を教わり, 分厚い本をばらばらとめくり, 展示を考えていった。

こうしてできた, 「藻—食べて, 食べて, 食べて... 細胞の進化へのチャレンジ」展は1階展示部屋で, 1997年9月に始まった。展示は「単細胞の藻類の共生—細胞の進化」にテーマを絞った。部屋には細胞が大きく描かれた9枚の布が天井から床までぶらさがっている。布の配置は, 真核細胞から始まり, 共生を繰り返す藻類の物語を来館者が主人公になって進化の順番にくぐり抜けられるようになっている。その布の中を音声説明に沿ってくぐり抜けていく。私自身, 進化と

いえば, 多細胞動物の進化に目が向いていて, その前の細胞の進化という時代を意識することが少ない。しかも, 現在の藻類がそれを見せてくれるなんて思いもよらなかったの, 是非それを取りあげなくては! と思ったのである。来館者が布をくぐり抜け終わった後に, 「進化とは形が変わること」というイメージをほんのちよっぴりでも変えてくれたら, そう思っている。

展示を作るとき, テーマがあり, 伝えたいことがある。私が展示を考える時, いつも根っこにあるのは, 研究の面白さ, または, 頭を使って楽しむことの素晴らしさを伝えたいということだ。芸術は感じるというが, 研究は感じるとは言わない。研究は理解するである。しかし, 研究といえば, 難解, つまり, ハードで冷たくて, 鋭利なイメージがある。ということは, 理解される前に研究にもイメージがあり, 一般の人は研究を感

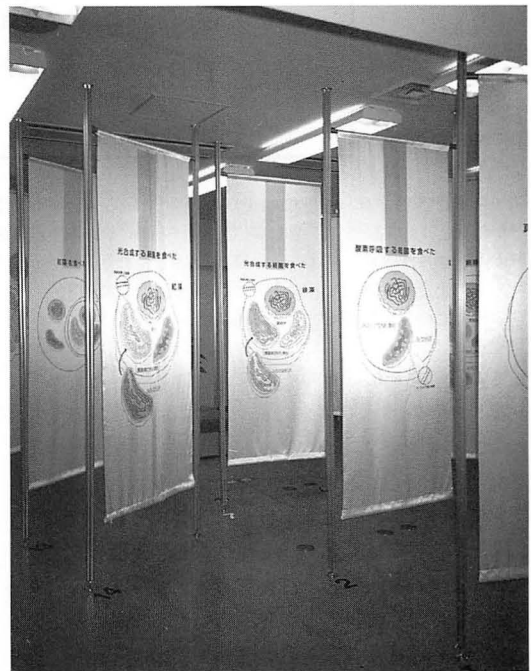


図1. 展示の様子。天井からつるした布9枚とパネル5枚で構成した。

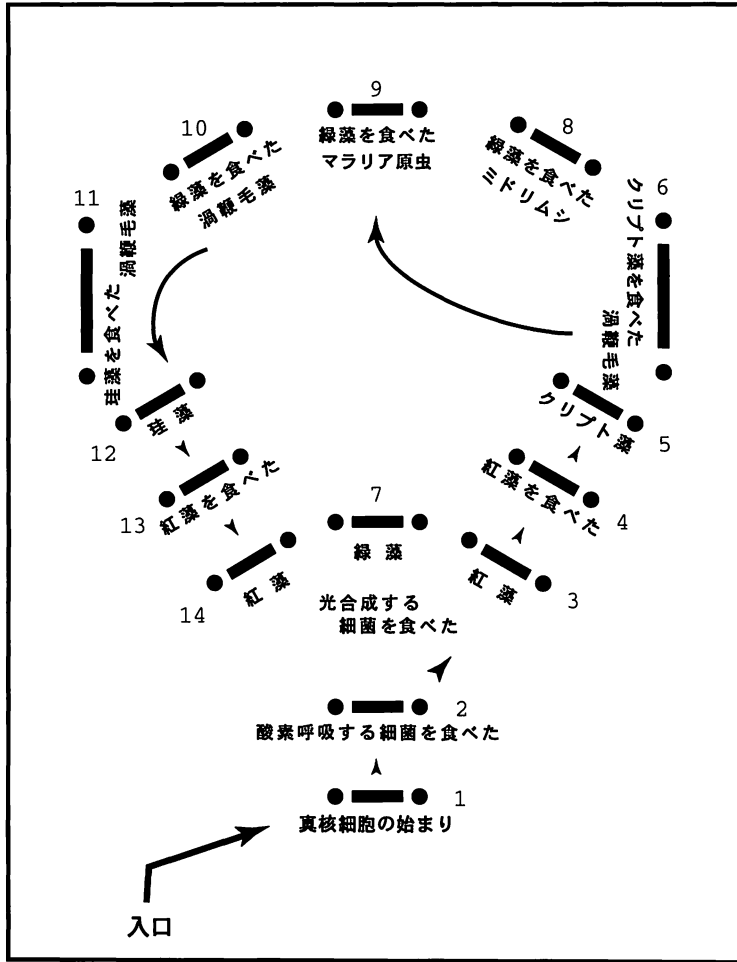


図2 布の配置図。真核細胞の始まりの布 (1) からスタート。まず、ミトコンドリアが飲み込まれる (2)。次にシアノバクテリアが飲み込まれ、緑藻 (7) と紅藻 (3, 14) の道に分れる。緑藻を飲み込んだものとして、ミドリムシ (8)、マラリア原虫 (9)、渦鞭毛藻 (10) が展示してある。紅藻の道は二つあり、片方がクリプト藻 (5)、もう一方は珪藻 (12) となる。そして最後には珪藻を食べた渦鞭毛藻 (11) とクリプト藻を食べた渦鞭毛藻 (6) になる。矢印は順路。11-14では、進化の流れを逆行しながら実際の研究者の思考回路をたどってもらう。

じているのだ。私はそのイメージを変えたいと思っている。今回の展示では、パネルだけに頼らず、布を使うことで生物の柔らかさ、曖昧さ、優しさを少しでも表現できないか、と思った。展示全体のイメージをソフトに、つまり、感じる部分にはそのように訴え、中に入って、絵を見て頭を少し動かす。耳を澄まして説明を聞くと、もっと頭を使って考え、理解することが出来る。はたして、そんな展示になったかどうか…。是非一度、御来館下さい。

(JT生命誌研究館コミュニケーション部門)

【JT生命誌研究館】

所在地：〒569-1125 大阪府高槻市紫町1-1

TEL：0726-81-9755, FAX：0726-81-9744

インターネットホームページ：

<http://www.jtnet.ad.jp/BRH/>

交通：JR 高槻駅より徒歩10分

開館日：毎週火曜～土曜 (祝日の場合も開館)

開館時間：10:00～16:30 (入館は15:30まで)

入館料：無料